

第4章 街づくりの課題

街の現況やこれまでの取組状況、そして西小山街づくり協議会が実施したアンケート結果から見えてくる、西小山の街づくりを進める上での街の課題は以下の通りです。

《課題1：地域の防災性の向上》

- ・防災性向上に資する取組の成果は着実に上がっているものの、目標の不燃領域率70%の達成や「燃えない街」の実現に向け、更なる取組が必要となっています。
- ・「一定の幅員が確保され、電柱がない安全な歩行空間の確保」等、災害時に有効となる避難路の確保が求められています。また、「不燃化建替えの推進」等、地域の防災性向上に関する項目で取組の強化が必要と感じている人が多く、生活再建を踏まえた不燃化建替えの更なる促進が必要となっています。
- ・公園が少ない地域であることから、防災上有効な空地となる公園等の確保に向けた取組が必要となっています。
- ・通学路沿いのブロック塀の倒壊対策など安全で安心な道路交通対策の強化が求められています。
- ・向原小学校は建替えに伴い地域避難所としての機能を充実させることが求められています。
- ・地域の防災活動への参加が減っており、地域防災組織による更なる防災活動の強化や誰もが参加しやすい仕組みづくりが必要となっています。
- ・避難場所の周知などの情報発信の強化を図るとともに、防災備蓄倉庫の設置など防災設備の更なる確保に取り組んでいく必要があります。
- ・延焼火災による被害に加え、豪雨等による浸水被害も想定される地域になっており、地域全体での豪雨対策・浸水対策への取組強化が必要となっています。

《課題2：街のオープンスペース確保と新たな利活用の推進》

- ・「地域のみどりの拠点や休憩等のできるオープンスペース（公園等）の確保」や「まちなかの緑化や樹木等の保全による潤いあるまちなみの形成」が求められています。
- ・地域の防災活動の場、一時の避難場所となる空地の整備だけではなく、多様な世代が楽しめる公園などのオープンスペースが必要となっています。
- ・新規の公園用地取得だけではなく、建物の共同化に併せたオープンスペースの創出や安心安全に配慮しつつ道路の歩道部を地域の防災活動の場として利用できるようにするなど、多様な手法による取組が必要となっています。
- ・公共施設の整備にあたっては、整備内容の検討から管理・活用までを含め、地域住民の意見を十分に反映させるための取組の強化が必要となっています。
- ・公園等の公共施設が不足する中、各施設の更新や新規整備に併せ、地域のニーズの変化に即した既存施設のリノベーションが必要となっています。

《課題3：誰もが快適に利用できる新たな時代のみちづくり》

- 「だれもが利用しやすい施設や移動経路の確保」や「生活に密着したお店や施設の継続」が多様な世代が暮らし続けられる街にするために必要となっています。
- 「施設のバリアフリー化」が「理想の街の姿」としての回答が多く、かつ「理想と現実の差」が大きくなっており、地域の重要な課題の一つと捉えられています。
- 人口構成の変化に合わせ、子どもから高齢者まで多様な世代が、安心して快適に移動できる歩行環境の整備が必要となっています。
- 歩行者と自転車が双方快適に移動できる環境づくりが求められています。
- 鉄道駅以外の交通手段の導入等、時代の変化に即した新たな移動手段に対する取組が必要となっています。
- 地域コミュニティの拠点としての役割や、震災時の地域避難所としての役割を担う向原小学校までの円滑な移動経路の確保が求められています。

《課題4：街の個性の継承と街の魅力を向上させる新たな賑わいづくり》

- 地域住民の街づくりへの参画による街の個性の継承や商店街の活気の維持・継承・発展に向けた新たな取組、地元企業の連携体制の構築・強化が必要となっています。
- 「地域が一体となった街づくりの推進」や「交通の利便性の高さや小規模な小売店等の維持・継続」が賑わいのある街の実現に向けて必要となっています。
- 人口構成の変化や新たなライフスタイルに対応した新たなワーキングスペースの創出や“地域で働き地域で暮らす人”を増やすための取組が必要となっています。
- 子どもを対象としたイベントの企画や親子が一緒に買い物できる環境づくりなど、地域に徐々に増えている子どもやファミリー世帯が暮らしやすい街づくりの取組が必要となっています。
- “従来の賑わい”と融合した“新たな賑わい”の施設をきっかけとした仕掛けにより、来街者の呼び込みと地域住民の施設活用やイベント参画を両立させる取組を考えていく必要があります。
- 地域に馴染みの無い新たな住民が地域の活性化の試みを理解し、コミュニティ活動への参画を促せるような情報発信の方法やコミュニティ活動を誘導するような取組が必要となっています。
- 向原小学校については地域コミュニティの拠点として誰もが使いやすい施設とすることが求められています。

《課題5：環境に優しい街づくり》

- 社会背景や関連計画における取組等から、環境へ配慮したゼロカーボンシティの実現を目指した取組が必要です。
- 街づくりの推進に併せて、環境負荷を軽減する取組を推進する必要があります。
- みどりの少ない当該地区において、既存のみどりを守り、新たなみどりを創出する取組が必要となっています。
- 環境に配慮したみどり豊かな街づくりにより、二酸化炭素の吸収量を増やす取組に加えて、再生可能エネルギー設備の普及を促進する必要があります。
- 向原小学校をはじめとする区有施設の ZEB 化や電力供給における脱炭素化を実施し、区民や事業者の意識啓発を推進していく必要があります。
- 立会川緑道においては、「立会川緑道 サクラ再生実行計画」（平成 31 年 3 月）が策定され、地域に親しまれる桜並木の維持管理に向けた取組が必要となっています。